

幼小連携・接続 オンデマンド研修動画

I なぜ幼小連携・接続が必要か

II ①幼児教育の役割と特長

②幼児教育で育つ力【演習】

III ①接続期の子どもたち

②スタートカリキュラム作成のポイント

IV 特別支援教育と幼小連携・接続

V 雲南市立斐伊小学校区の取組

Ⅳ 特別支援教育と幼小連携・接続

小1フロブシムの解消

すべての

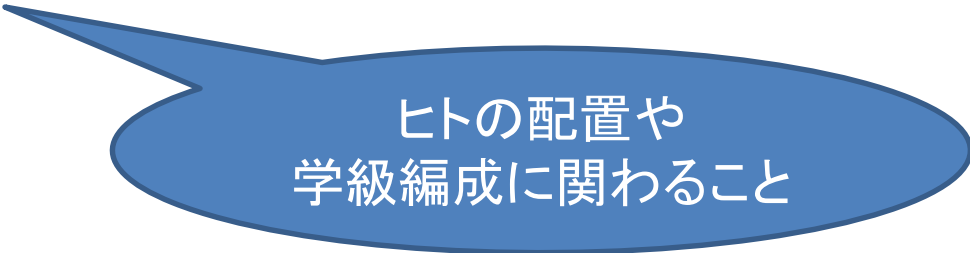
+

子どもたちが安心して
小学校教育を送るため

+

小学校以降の学びを
豊かにするため

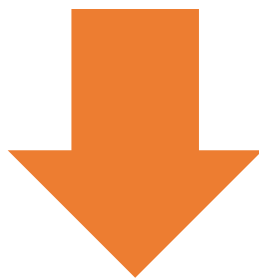
幼小連携・接続 ≡ 気になる子の情報共有



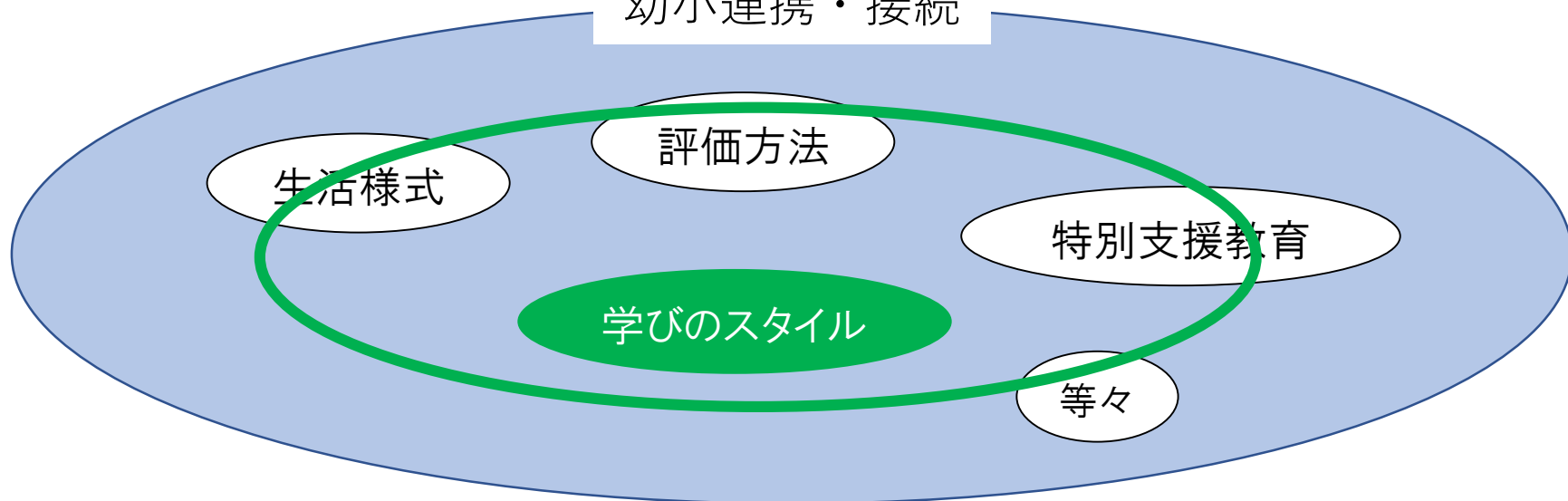
ヒトの配置や
学級編成に関わること

という誤解

特別支援教育にかかわる点を 中心にする



幼小連携・接続



幼児教育と特別支援教育の共通点

幼児教育では

特別支援教育でも

子どもを肯定的に見る

発達する姿を捉える

先生は一人一人の思いをくみ取る

幼児教育と特別支援教育の共通点

子どもを発達の
側面から捉えること

子どもを発達の側面から捉える



「特別支援教育」の視点が必要

言葉かけ
視覚支援
約束



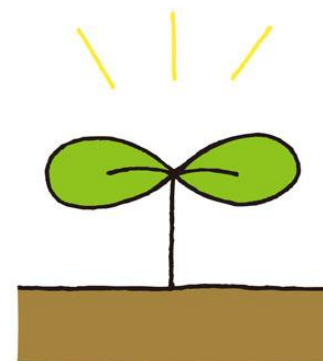
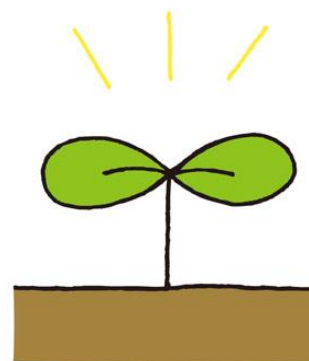
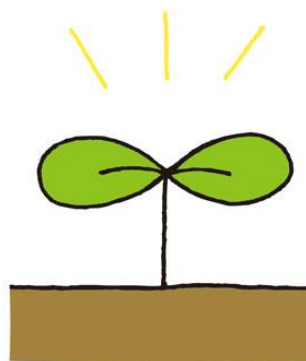
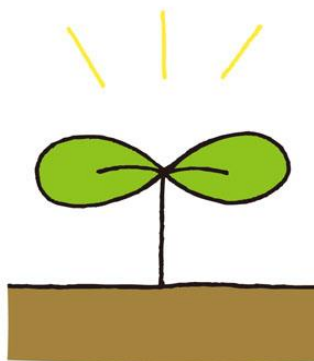
ワクワクする気持ち

楽しい

おもしろい

やってみよう

がんばるぞ



安心できる空間である

やるべきことを理解している

幼児教育と小学校教育は

環境、教育目的、教育方法、評価のあり方などが大きく違う

しかし、子どもの育ちは連続している

特に、8歳頃（小2頃）までは発達の特徴から園児と同じ「幼児期」にあたる

安心できる空間である

やるべきことを理解している

特別支援教育の知見を生かした授業づくり



幼児教育

安心感

やるべきことの理解

小学校教育

これらのことから

すべての

**接続期の子どもを見るときには、
特別支援教育の知見が必要**

≠ 「気になる子」 だけを見る

幼児教育の基本的な視点

幼児の遊びや生活といった**直接的・具体的**な体験を通して
人と関わる力や思考力，感性や表現する力などを育み
人間として，社会と関わる人として生きていくための**基礎**
を培う



幼児教育はUD化されている



特別支援教育との共通点

場の構造化



集中のさせ方



指示の出し方



遊ぶ環境をうまく整えると、 子どもたちは遊びに熱中する。

注意深く見ていないと、
発達のアンバランスに気づかない

- ・保育参観に特別支援教育の知見が必要
- ・保育参観後の「大人」の語り合いが大切

キーワード

「ワクワクスイッチ」を
切らないこと

話を聞かない子が多い

なぜ「聞かない」のでしょうか

その子に合った伝え方をしていますか？

支援学級の先生に相談すると
答えが見つかるかもしれませんよ。



～特別支援教育にかかわる点を中心とし~~て~~に幼小連携・接続～

しない



～特別支援教育の知見を中心に据えた
幼小連携・接続～

特別支援教育の知見を最大限に生かすこと

「子どもを真ん中に置いた」取り組みが大切。
保育参観をして、子どもの姿を読み取っていくことで
教員の構えが違ってきた。（小学校教員の感想より）

小学校の先生と一緒に子どもの「いい姿」を語り合うこ
とで、心の壁がどんどん低く、薄くなり、安心して引き継
ぎができた。（保育者の感想より）



県内の実践より